

平成22年 (2010年) 3月27日 (土曜日)

# おいしい水めぐり

## こみせ通りを中心に

### 黒石商議所で 小冊子など作る 暮らしや営みなど紹介

「水清く人情のあついましみの里」の市民憲章を受けて黒石商工会議所(北山 釜会頭)は、こみせ通りを中心に井戸水のある暮らしや営みを紹介する小冊子「くろいし おいしい 水めぐり」を発行した。水を通して新しい出会いや発見、観光のスタイルを考えるきっかけになればと初めて制作。同時にチラシやポスターも作ってPRする。

### 新しい出会い、発見…

小冊子はB5判・10ページのカラー印刷。「この町の水をめぐり、おいしい話」として取り上げたのは「江戸時代の商家で味わう珈琲&水」(重要文化財高橋家)、「ひばの器でおいしい長寿の水を」(岩崎材木店)、「珈琲と抹茶をたてる癒やしの水」(茶房佐志仁)、「玉垂を醸す八甲田山系の水」(中村亀吉)。「八甲田伏流水の井戸」「小見泉」(津軽黒石こみせ駅)、「菊乃井の酒を仕込むうまい水」(櫛崎海醸造店)、「旨い蕎麦とこんにやくをつくる水」(つがる食彩野田)、「大正天皇が飲まれた、ありがたい水」(フープル)。「創業百二十年、時を刻んだ優しい水」(土藤時計店)。

唐。

それに「どこよりも美味しい豆腐を作る水(とうふの船水)」、身を清める境内の水(法眼寺)。

特徴などを紹介している。「中町のこみせ通り」その中心的存在が重要文化財に指定されている高橋家。代々黒石藩御用達の米穀商(中略)香ばしい珈琲の匂い。そう、いまは喫茶店として、サイホンでいれた珈琲や、テン

タルジクな空間(高橋家)。「早朝、冷たい水を豊富に使い、手際よく作業を進める様子に、黒石が水清き街であることを改めて実感」とうふの船水。「水屋はこの花に囲まれるようにあり、近隣の家が夏

グサから寒天を作るあんみつなど「こみせ」の水を使った美味しいメニューが味わえるノス



黒石商工会議所が作った小冊子「くろいし おいしい 水めぐり」

枯れたときでも、お寺の水は枯れなかったという豊富な水量が特徴(法眼寺)。

住所、営業時間、駐車場などのほか「どうしたら(水が)飲めるか」。今年1月に採水した分析結果(蒸発残留物、カルシウム・マグネシウム、遊離炭酸水温度なども掲載)。

「今回の検査は11カ所の井戸水について実施したが、各検査項目で大きな差がないことから水系はほぼ同じと推定される。したがって、いずれの井戸水も適度なミネラル分(カルシウム、マグネシウムなど)を含み、おいしい水の要件を満たしている」と報告。

このほか「獅子ヶ沢の清水」「櫛ヶ峰源流水」「袋の湧き水」「厚目内の寒水」「黒森浄仙寺の湧き水」などや、これらのマップも掲載している。